

チュウシャクシギ（シギ科） 全長42センチ

4月27日、珍しい野鳥チュウシャクシギが大仙市に飛来した。大浦沼近くの田んぼで見つけたのは、この1羽だけです。群れで行動する習性から、仲間とはぐれてしまったのでしょう。

ユーラシア大陸と北米大陸の亜寒帯から寒帯に繁殖地を持ち、日本には渡りの途中の旅鳥として少数が渡来します。県内では主に海岸の砂浜で観察されることが多いようです。

大浦沼周辺の田んぼは所々で春耕が始まり、黒い土が現れました。チュウシャクシギは、まだ機械が入っていない田んぼで畦道の上や際を歩きながら、餌を探していた。下に湾曲している長いクチバシ。この形が餌を探すのに都合が良いのでしょう。



農道を歩く。

海水域ではカニを食べていることが多く、淡水域ではカエルやオタマジャクシなどと言われています。畦道の際にクチバシを刺し込んで、なにかを取り出したが、種類までは確認できません。時々カラスに邪魔されながらも、飛び去ることもなく餌探しに夢中です。



羽づくろいで身だしなみを整えます。



尾羽が現れた。

旅の途中に降り立ったことから、長居はしないでしょう。
やはり、翌日に訪れたら姿が見えませんでした。



クチバシを開いてくれた。



田んぼの水溜りで水浴びを始めました。